

カナダの金利引き下げについて

2015年1月22日

1月21日（現地時間）、カナダ銀行（中央銀行）は金融政策会合を開催し、政策金利を0.25%引き下げ、0.75%とすることを決めました。今会合では政策金利の据え置きが予想されていたことから、予想外の利下げ決定を受けて、カナダドルは大幅に下落しました。

《金利引き下げ決定に至った経緯について》

今回の利下げ決定の背景として、原油価格下落による景気・物価の下振れリスクの高まりが挙げられます。

カナダは、原油・天然ガスの輸出ウエイトが大きいことから、原油価格下落の経済への影響が大きく、カナダ中銀は今年前半の実質GDPが前期比年率+1.5%程度まで減速するとGDP予想を下方修正しました。

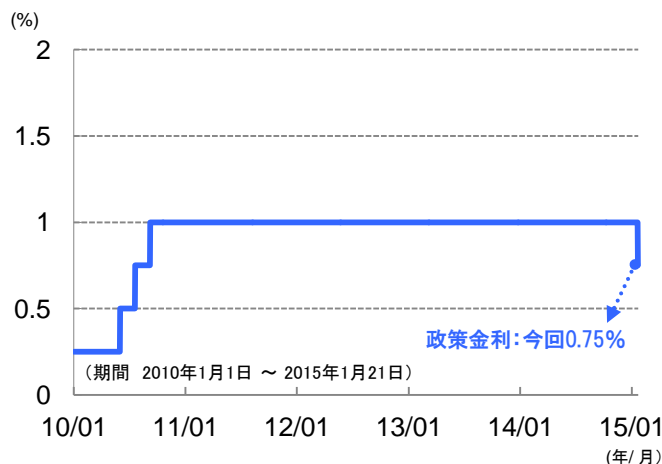
また、物価に関しては原油価格下落の影響を受けて総合CPIの見通しが大幅に引き下げられました。このことは、2015年を通してインフレターゲットの前年比+2%（レンジ+1%～+3%）を下回る状況が長く続くことを意味します。

《今後の景気、為替レートについて》

カナダ中銀は、今回の利下げ決定について原油価格下落による景気・物価の下振れリスクに対する予防的措置としています。ただ、上記の景気・物価見通しは原油価格が1バレル=60米ドルを前提としていることから、今後、原油価格がさらに下落すれば景気・物価見通しの下方修正及び追加利下げの可能性が高まるとみられます。当面、カナダドルは金融政策の方向感の違いが意識され、対米ドルで減価圧力がかかりやすくなると考えられます。

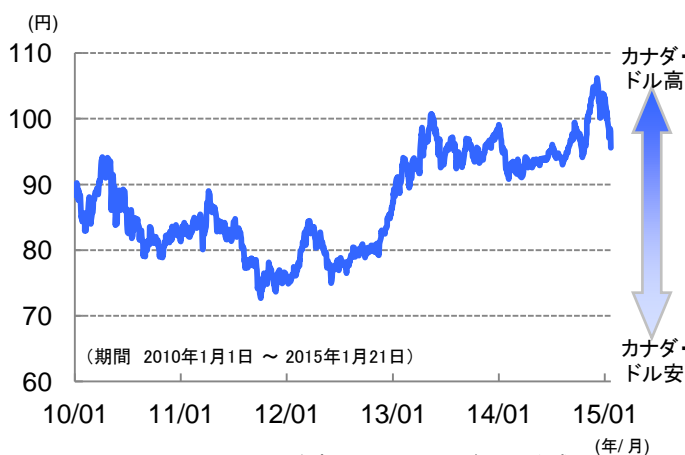
ただ、最大の輸出相手国である米国の景気が好調を維持していることや、低金利環境・カナダ・ドル安がカナダ経済をサポートすることが期待できることから、カナダ・ドルは徐々に底堅い動きを取り戻すと考えています。

《カナダの政策金利の推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《カナダ・ドルの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。